

～共助社会の寄附とボランティア～
共感を生み出し、
関わろうとする力を引き出すために

大阪ボランティア協会
事務局長 水谷 綾

はじめに：大阪ボランティア協会

<http://www.osakavol.org>



- 1965年、全国に先駆けて誕生した民間の市民活動サポートセンターです。
- 阪神淡路大震災の時には、西宮に拠点を設置し、「被災地の人々を応援する市民の会」を立ち上げ、災害ボラセンの原初に。東日本大震災においても、企業等を巻き込みながら現地支援。3.11 from KANSAIなど復興支援にも力を注いだ。
- ボランティア・NPO推進センター、企業市民活動推進センター、情報出版・ボランタリズム研究所の3つの部門にて、約150人のボランティアスタッフと10人の有給職員が、ボランティア(グループ)やNPO、企業の市民活動の推進に取り組んでいます。
- 府の施策終了につき、大阪NPOプラザ運営が集結。そこで、2013年4月に、市民からの1250万円の寄附を集めて、NPOへのブース提供&貸し会議室機能がある市民活動スクエア「CANVAS谷町」をオープン！

「人」のつながり×「人」の成長の社会へ

『共助社会づくり』とは、「市民がつながり、活力と共助の精神にあふれる社会をつくっていくこと」ではないか。 〈参考〉共助社会とは、人々が能力を発揮できる経済・社会（第1回共助懇）

NPO法人に期待する役割

Q. NPO法人に対してどのような役割を期待していますか。（複数回答）

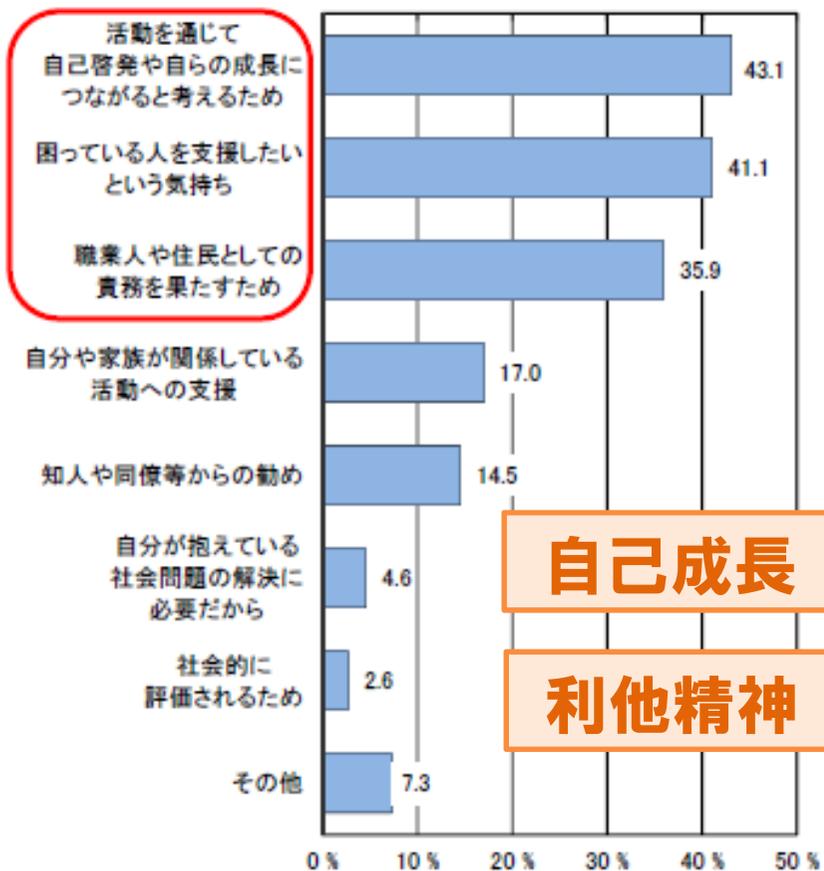


（備考）内閣府 平成25年度「NPO法人に関する世論調査」により作成。

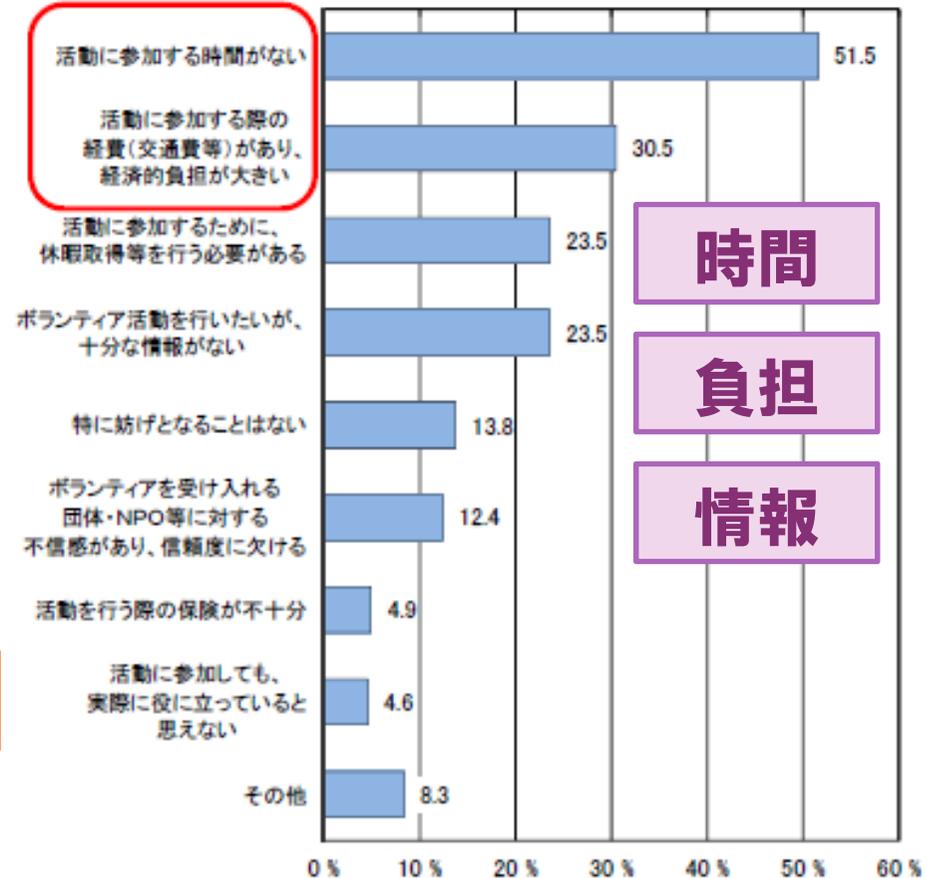
～「人」のつながり×「人」の成長の社会へ～

関心6割 参加3割 : 不参加3割の背景

【参加理由】(n=1,028)(複数回答)



【参加の妨げとなる要因】(n=3,003)(複数回答)



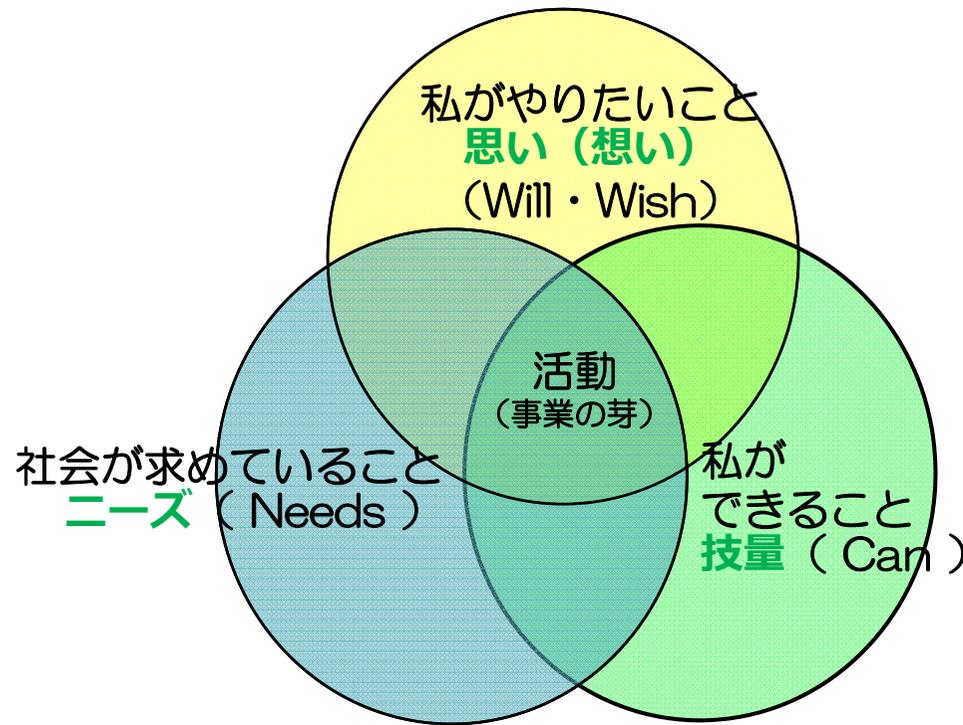
“関わろうとする力”を引き出すには

地域で起こっている様々な現状と課題

- ・行政の委嘱等による地域の支え手確保が困難。
 - ▶保護司、民生委員など、担い手が見つからず悩む
- ・地域介護福祉の担い手の今後のむずかしさ
 - ▶20年、中高年女性が支えてきた：今後、地域にいるか。
- ・行政の施策(例：学校の土曜学習等)に必要とされるボランティア
 - ▶「地域にひらく」：ただ、その地域に「人」はいるのか
- ・NPO法人のボランティア参加の弱さや後継者問題
 - ▶ボランティア「ゼロ」のNPO法人：約3割 (2013年度内閣府のNPO法人実態調査)

～“関わろうとする力”を引き出すには～

従来に捉われない。関わる側の物語を作る



●活発さ、新鮮さが 感じられる組織の共通項

- ①対象を絞っている
- ②伝わることばで、課題を突きつけている
- ③ともに夢を見ようとする
- ④ゴール(期間等)を示す
- ⑤成長の姿が想像できる

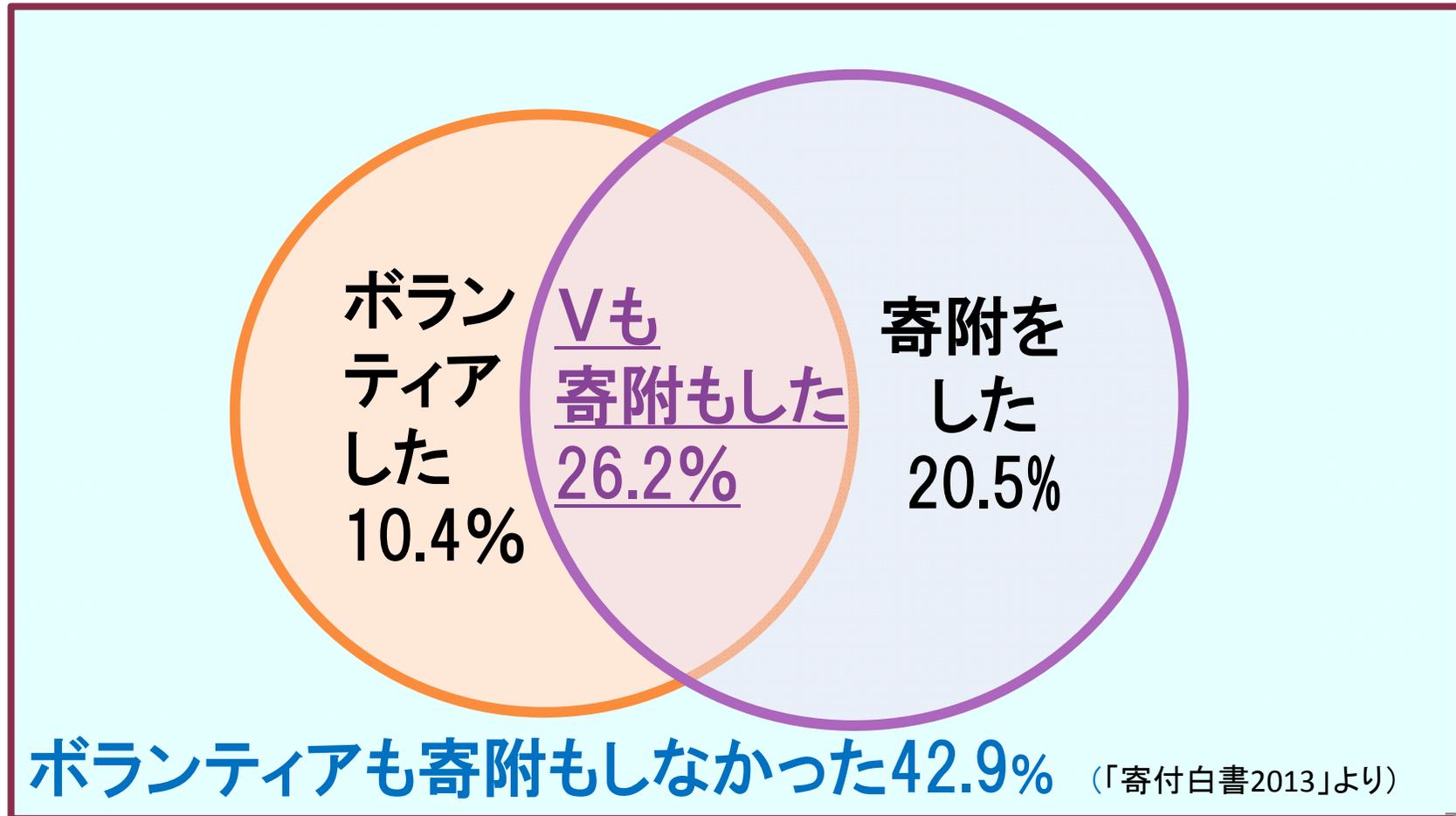
動機を満たし、課題を克服



～“関わろうとする力”を引き出すには～

参加する⇒つながる⇒広がるという連鎖

ボランティアが「次」の可能性を生み出す



～“関わろうとする力”を引き出すには～

共助社会づくりに必要なボランティアな力

- ①. 従来の仕組みも尊重しながら👉
- ②. こちらのニーズありき、ではなく👉
- ③. 要援助者⇔援助者の関係を超えて👉
- ④. “楽しみ”から“深さ”へ：参加の階段づくり👉
- ⑤. 参加型組織を支えるための基盤整備に👉